

平成22年10月22日

中標津町長 小林 実 様

第6期中標津町総合発展計画審議会

会 長 小 野 弘

### 第6期中標津町総合発展計画（素案）の答申について

平成21年12月18日に本審議会へ諮問された第6期中標津町総合発展計画（素案）策定について、「まちづくり町民会議」さらに担当課長職で構成する「策定委員会」と意見交換を重ね策定した素案について、慎重に審議した結果、基本的な方向性について適当と認めます。

なお、別紙のとおり審議会としての意見をまとめましたので、その意見を付して答申いたします。

## 答 申

### 1 , 基本構想

平成 13 年度から 10 箇年計画として進められた、第 5 期中標津町総合  
発展計画基本構想は、まちづくりの指針として大きな役割を果たしてき  
ました。

この間、少子高齢化は一層進展し、増加を続けてきた人口も横ばい状  
態になり、環境問題の深刻化、経済・産業構造の変化など社会経済情勢  
は大きく変化しております。

このような社会情勢のもと、新たなまちの将来像「空とみどりの交流  
拠点・中標津」の実現を目指すためには、環境への配慮や、町内会・ボ  
ランティア等による心の通う地域社会の構築が大きな課題です。

また、にぎわいとふれあいの拠点形成など、町民一人ひとりが持てる  
力を発揮していきいきと活動できる施策を展開し「あつまるまち・つな  
がるまち・ひろがるまち」の実現に最大限努力していただきたい。

基本構想に掲げた将来目標人口については、今後の人口増を目指す総  
合的な施策展開の結果として期待する目標人口であることから、達成さ  
れるよう積極的に主要施策を進めて下さい。

## 2 , 前期基本計画

施策を具体的に記述し、取り組みを簡潔に記載して基本計画の内容記述については極力わかりやすいように検討し助言しましたが、専門用語や難解な用語についての注釈など、更に理解しやすい計画書となるよう配慮していただきたい。

今回初めての取り組みである、町民・行政・団体・事業者がそれぞれ対等な立場で行う「協働に向けた行動指針」の実現と、施策展開の指針を明確にするために、成果指標（ベンチマーク）を設定し計画の達成度に客観性を持たせた試みについては、確実な検証と情報公開を図り、後期基本計画策定に反映させることを期待します。

また、計画策定に至るまでの過程で提起された多くの意見については、計画・実施段階における検討素材として十分参考にすることが必要です。

さらに、施策の実現に向けて財政面等をよく検討するとともに、都市計画マスタープラン・環境基本計画など同時進行している各種計画と連携を図り、部局を越え横断的に事業検証された実施計画の推進を期待します。



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---